

こちら校長室

こころ



令和5年度



令和5年 11月 13日

京都市立修学院小学校

校長 鎌田 賢二

TEL : 075-781-4439

## 目を輝かせ 今を大切に生きる子 ～しなやかに 夢中に 安心安全に～

### 色々な見方考え方で物事をみつめる

11月の初旬は汗ばむ陽気で本当に紅葉しているのかと思わず比叡山を眺めてしまったほどです。先日子どもから紹介された1冊の本があり、なかなか面白い内容だったので、感想をお伝えするとともに色々な見方考え方についてお話ししようと思います。

内容は、絵画に対しての見方考え方です。世界にはたくさんの名画があり、ついつい名画を前にすると知識を結集させて絵を鑑賞しようとしてしまう頭の固い自分がいます。しかし、この本は違いました。名画から自分の生活経験と合わせて、その見方考え方をセリフにしてしまうというものです。絵を鑑賞するというのはこんなに楽しいもんなんだと実感しました。見方考え方大事ですね。

鑑賞の楽しみ方は

- ① 知識理解のもとにあるものもあれば、
- ② 自分の経験からのものもあり、

人の数だけ見方考え方があり、鑑賞内容がありそうです。本を通して「何で狭い考え方で物事を見たり考えたり、取り組んだりしてたんだろう。」ということがよくわかりました。

確かに芸術に対しての知識理解が高まることで、構成や色、筆のタッチ、画材など色々な考え方で物事を見る事ができ、豊かな情操を養えると思います。しかし、その知識がなくても自分自身が、その絵を自分が持っている見方考え方で楽しむことでも十分に豊かな情操は養えます。

同じものを鑑賞する場において、見方考え方を変えることで、たくさんの受け止めができます。それと同時に浮かんできたことは、目の前の事象についても心の状況（見方考え方）によって解釈は様々なんだということです。お互いに話していくもなかなか交わらないと感じたときは、そもそもその見方考え方方が違うのかもしれません。学校教育から、家庭教育から、地域教育から、教師から、保護者から、地域からなど色々な視点があります。見方考え方方が違うことに思いを寄せることで、折り合える視点が見えてくるかもしれません。子育ては特にそう感じます。なかなか自分の思うような見方考え方で子どもが事象を見ていることはありません。食い違うことが多いです。ただ、それをコントロールしにかかると反発に変わります。遊び心でその子の見方考え方へ寄り添ってみると子どもの柔軟な感性から発見があり、学ぶことが多いです。現状維持に陥らないように気を付けたいものです。

すぐにできる見方考え方でどんなものがありますか？